

みどり樹

特集/山大聖火リリースペシャル

学び、巣立ち、輝く人々、
この多彩さこそが山大の成果

研究室訪問/生物有機化学

植物と昆虫の防御機構に
着目し、新しい化学物質の
発見・応用を目指す





少年時代に読んで衝撃を受けた漫画「漂流教室」と自身の代表作「HUNTER×HUNTER」を手に笑顔の富樫先生。

優に見守ってくれた、
母のような大学でした。



専心の成果

富樫さんにとっての山形大学とは？

山形で過ごした穏やかな日々を糧として、 厳しい漫画の世界で第一線を走り続ける。

富樫義博 漫画家

生来、絵を描くことが大好きな少年だった富樫義博さんは、小学校低学年の頃からコマを割って漫画形式で絵を描いていたという。当時は、自分より絵の上手なクラスメイトに触発されて家でも学校でもよく絵を描いていた。そんな富樫さんは、学校という環境が好きで大人になっても学校に居続けたかったため、「学校の先生、それも絵が好きだから美術の先生になるしかない」というシンプルな発想で、美術教師を目指して教育学部美術学科(現・地域教育文化学部/造形芸術コース)に進学した。当初は、富樫さん自身もご両親も、中学校の美術教師という将来像を描いて平穏な大学生活を過ごしていた。

しかし、その後の教育実習で教師という職業の大変さと難しさを痛感することとなり、教師の道を断念し、漫画家になることを決意。一般的には、教師よりも漫画家の方がハード

ルが高く、険しい道のりだと思えるが、富樫さんには予めその道筋が見えていたようだ。穏やかな大学生活の中、漫画を描く時間はたっぷりあった。美術学科の学生は、自然と美術研究会サークルに所属する流れになっていたため、授業の延長上で油絵の制作や発表などを行っていたが、サークル活動のない日は、授業が終わるとすぐにアパートに帰り、ひたすら漫画の創作に没頭した。やがて「週刊少年ジャンプ」の漫画賞に応募するようになり、佳作、準入選と立て続けに賞を受賞し、着々と夢を引き寄せていった。サークルでは自分と同



富樫義博
とがよしひろ●山形県新庄市出身。教育学部美術学科(現・地域教育文化学部)在学中に漫画賞受賞を経て漫画家デビュー。代表作「幽☆遊☆白書」「HUNTER×HUNTER」「レベルE」はアニメ化されている。

じように漫画雑誌で賞を受賞した友人とも知り合い、酒を飲んでファミコンの話など他愛もない会話が盛り上がるのが楽しかったと振り返る。ほどなく、「週刊少年ジャンプ」の有望株として担当の編集者がつくまでになった富樫さんは、在学中に読み切りもので漫画家デビュー。さらに、担当編集者の勧めもあって連載開始をきっかけに上京。卒業目前というタイミングだったが、先生も友人も賛成し、快く送り出してくれた。都会人となっても富樫さんのふるさとへの思いは強く、「レベルE」では山形を舞台としたり、年2回の里帰りも欠かさないほどだ。「今思えば、大学時代を刺激も誘惑も少ない山形で過ごしたからこそ、自分のやりたいことを見つけていることができたし、あの頃に蓄えた栄養みたいなものがあるから、今、都会で頑張っているのかもしれない。時間的余裕のある大学時代に本当にやりたいこと、好きなことを見つけて、必要とあれば都会に出る、それでも全然遅くない」と富樫さん。近年は、体重増加で腰を痛めて連載の休載を余儀なくされていたが、ウォーキングやジョ



アトリエで漫画のペン入れ作業に集中する富樫先生。ここから多くの人々を魅了する作品が生み出されている。

ギングで減量にも成功し順調に回復しつつある。今では、腰痛を克服するために始めたランニングが趣味になっている。50歳を間近に控えた現在の目標は、50代でフルマラソンに挑戦すること。逆境を逆手に取って楽しみに変えている。「好きなものをいくつも持っている、何かひとつ諦めることになっても前向きに方向転換ができる。だから、好きなものを自分で見つける習慣をつけておきたい」大学時代にやるべき事として富樫さんが寄せてくれたメッセージは、第2の「好き」をかなえた先輩の言葉だけに説得力に満ちている。



特集 山大聖火リレースペシャル

学び、巣立ち、輝く人々、 この多彩さこそが山大の成果。



米沢市出身の画家、小池隆英の代表作約50点を展示した企画展で巨大な作品群を前にギャラリートークを繰り広げる岡部さん。

多彩な企画展で幅広い層を美術館へと誘い ふるさと山形の芸術文化の発展に大いに貢献。

岡部信幸 山形美術館 副館長・学芸課長

心理学への興味から人文学部文学科(当時)に入学した岡部信幸さんだったが、2年次の専攻を決める段階になって抽象絵画への関心が高まり、美学美術史を専攻。美や美術作品の時代背景や作家研究などを行う分野で、岡部さんは特にロシア・アヴァンギャルドやバウハウスのデザインに強く惹かれたという。将来の仕事に対するビジョンはなく、授業、図書館、書店、レコード店を往復する毎日。長期

休暇に入ると好きな作品鑑賞のために展覧会を巡ることが多かった。そんな中、展覧会などを企画する学芸員という職業があることを知り、



岡部信幸
おかべのぶゆき●山形県上市出身。1988年人文学部専攻科修了。学芸員として齋藤茂吉記念館に5年間勤務の後に山形美術館へ。郷土の作家からロシアアヴァンギャルドまで、幅広いジャンルの企画力に定評がある。

山形大学で学び、巣立ち、各方面で活躍されている卒業生と、学内外のさまざまな活動で輝いている現役学生を紹介する「山大聖火リレー」のスペシャル版として、OB6名と現役学生2名を紹介する。山大を母校とする人々の今を訪ねてみると、その顔ぶれの多彩さ、偉大さに驚く。あの人はどんな大学時代を過ごしたのだろう。今はどんな活躍をしているのだろう。知るほどに、山大生・山大卒という響きにきつと、もっと胸を張りたくなる。

俄然、目指すべき方向が定まった。人文学部文学科卒業後、専門性を高めるために人文学専攻科哲学コースで1年間学び、地元上市市の齋藤茂吉記念館の学芸員を経て、山形美術館の学芸員に着任。以後、学芸課長として20年以上にわたって同美術館の企画・運営を担っている。

とりわけ岡部さんの学芸員としての手腕を物語る実績が、2008年の「太田三郎一日」展。全国の県立美術館など有力美術館140館が加盟する全国美術館連絡協議会の美術館表彰「奨励賞」を受賞したのだ。しかも、美術館や博物館は、通常10名前後の学芸員で運営されているのに対して山形美術館はわ

ずか2名体制で成し遂げた快挙。「短期間でいろんな経験ができるので成長は早いですよ」と苦笑いの岡部さん。今後も郷土作家の作品やフランス近代絵画など、収蔵品を生かした展覧会や他の美術館との共同巡回展など、魅力あふれる企画展をバランスよく展開していく。さらに、美術館をより身近な空間として老若男女に親しんでもらえるようにワークショップやギャラリートークなどにも力を入れていく考えだ。

本学では、人文学部、地域教育文化学部、理学部で学芸員の資格取得が可能のため岡部さんのように優秀な学芸員をたくさん輩出している。先輩方のごような活躍は、後輩たちの歩む未来を照らす光となるに違いない。



熟練の成果

山形美術館の常設展示コーナーでは、フランス近代絵画など、珠玉の美術作品をいつでも鑑賞することができる。



複数の時間
time specificity
岡部信幸

岡部さんにとっての山形大学とは？

多国籍の研究者たちと2カ月間の研究航海、この貴重な経験と達成感を自信に変えて社会へ。

新野薫 理工学研究科(理学系)博士前期課程2年



船内の研究室で、コアから採取した微生物の化石を観察する新野さん。新しい発見と経験の連続の日々を送った。

昨年の秋、理工学研究科博士前期課程2年の新野薫さんは微化石研究者としてモルディブ沖の船上にいた。IODP (International Ocean Discovery Program / 国際深海科学掘削計画)の一環であるExp.359 Maldives Monsoon and Sea Levelに乗船するチャンスに恵まれたのだ。Exp.359のミッションは、モルディブ海域の海底を掘削し、そのコア(地層・岩石の柱状試料)を調査・分析することで



新野薫
にのいのおる●山形県米沢市出身。農学部を卒業後、理工学研究科地球環境学専攻に進学。昨年10月から2カ月間にわたってIODPの研究航海を体験。この春からはレノボ・ジャパン株式会社に勤務。

過去の地殻変動やモンスーンが始まった時期などを解明するというもの。新野さんが担当したのは掘削したコアに含まれる放散虫という微生物の化石を顕微鏡で観察し、コアの年代を推定すること。10月にオーストラリアを出港してモルディブに向かい、掘削地点到着後、約1カ月半にわたる船上研究を行った。約30名の研究スタッフのうち、日本人

挑戦の成果



自分の意思を込めた「知識」で物事を決断し、時代や立場の変化にも臆することなく颯爽と。

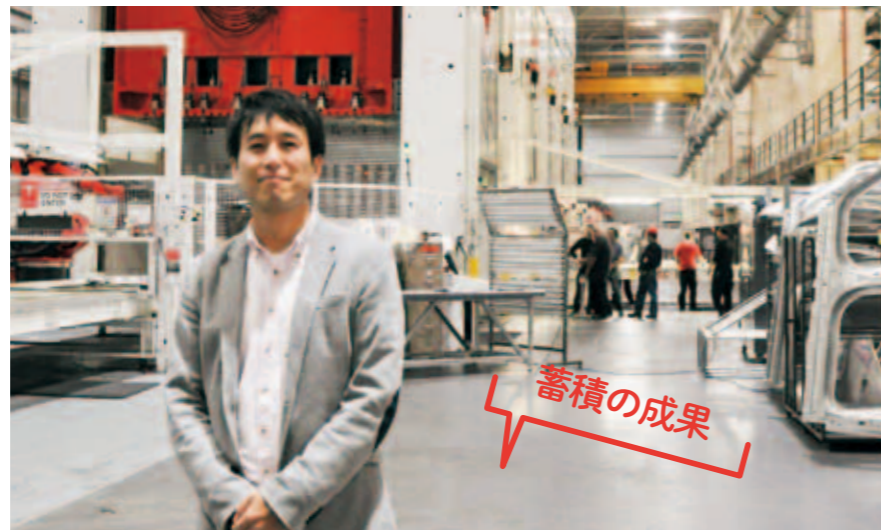
山本憲作 本田技術研究所 4輪R&Dセンター企画室



出張中のアメリカにて、現地スタッフと実施したワークショップでのワンシーン。軽妙なトークを展開する山本さん。

工学部の地元米沢市で生まれ育った山本憲作さんは、大学といえば山形大学というイメージでごく自然に進路を決めた。そして「これからはパソコンの時代」と電子情報工学を専攻。将来はシステムエンジニアになるのだろうと漠然と考えていたが、同じ研究室の先輩が自動車業界に就職したことを知り、子どもの頃から車やレースを見るのが好きだった山本さんは、俄然、自動車関連の仕事に就きたいと覚醒し、「本田技術研究所」への就職を果たした。

入社して最初に配属されたのは熱機関に関



現在はHONDAという国際線ターミナルから世界へ。これは北米に出張した際に工場で撮影した一枚。

蓄積の成果

山本憲作
やまもとけんさく●山形県米沢市出身。2001年大学院理工学研究科博士前期課程修了。株式会社本田技術研究所4輪R&Dセンター企画室に所属し、経営陣をサポート。本学非常勤講師として後進の育成にも貢献。

観とシステム思考によるもので、会社に入ってからどんな業務にも大きく役立てられている。「社会に出ると自分の想像を超えた出来事が降りかかって来る。そんな時にこそ試される真の実力。どれほど学びの“型”を身につけてきたか、人に聞いたりネットで見ただけの“情報”ではなく、自分で考えて意思を入れた“知識”を持つことができているかが重要になる。きちんと自分で考えて決断できるようになれば、大学生活は有意義になります。振り返った時、よかったと思える学生生活を!」非常勤講師でもある山本さんからより多くを吸収したいところだ。



いよいよ出港。海底掘削船JOIDES Resolution号に乗り込む前に研究スタッフ全員で記念撮影。

は新野さんを含めて3名。多国籍の人々が集う船上の異文化交流は楽しく、刺激的なものだった。

高校生の頃から地球環境に関心のあった新野さんは、酸性雨や越境汚染の研究ができるという農学部に入學し、卒業後は、より興味深い化石の研究がしたいと理工学研究科地球環境学専攻に進学。今回のExp.359への参加は、指導教員である本山功准教授の勧めで実現した。語学力や専門知識面での不安もあったが、掘削されたコアより地質学的に新たな知見を得るといった研究チームの成果に貢献できた。この達成感は、今春社会に出る上でも大きな自信になっているという。

「博士前期課程の2年間は特に密度が高く、充実していた。やったほうがいいとわかっていることは、大変で難しくてもやってみるべき。きっとできるし、楽しいから!」と新野さん。そのリアルに充実した表情が印象的だった。

新野さんにとっての山形大学とは?

地元にながら世界と繋がることのできる場所

新野薫

大学で学び、パラオで深めた知識と経験を地域の自然や歴史を伝える博物館業務で発揮。

後藤亮 千葉県立中央博物館 研究員



千葉県立中央博物館のメイン展示の一つ、マッコウクジラの骨格標本の前で「もっと気軽に博物館を楽しんでほしい」と語る後藤さん。

探求の成果

子どもの頃から生き物が好きで、生物学が学べる大学を探していた後藤亮さんの目に飛び込んできたのは、大学案内の表紙に掲載された山形の豊かな自然。冬の樹氷をはじめ、四季折々の美しさに魅了され、「ここで大学生活を送りたい!」と思ったのだという。理学部生物

学科から大学院に進学し、博士後期課程まで学びを深めた。博士論文のテーマは「パラオ諸島海水湖に生息する魚類の進化」。人生初の海外は、卒論研究で訪れたパラオ諸島。調査対象である海水湖に辿り着くためにジャングルを歩いたり、湖で溺れそうになったり、苦勞も多かったが、楽しい記憶の方がより鮮明だ。先生や先輩方と協力して行った調査や、満天の星空、エメラルドグリーン海とそこに生息する生き物たち、すべてが一生涯の思い出だ。

博物館に就職することになったきっかけは、博士後期課程の頃に山形県立博物館で働



学生時代、パラオの海水湖で調査対象の魚を投網で捕獲したシーン。後藤さん(写真左)と指導教員の半澤直人教授。

いた経験が大きい。博物館の調査研究や地域の歴史、自然などを人々に伝える仕事に魅力を感じたのだ。公募の少ない狭き門ながら、千葉県立中央博物館に採用され、企画調整課で広報活動や他の博物館との連携・連絡などを担当する他、研究員として川や湖に生息する魚の研究も継続している。

大学で学んだ専門分野はもちろん、卒論や修論で身につけた論理的な考察力や文章力、プレゼンテーション力も大いに役立っている。「大学生活という貴重な時間はアツという間。色々なことに挑戦、経験して人生を豊かなものにしてほしい」と自らの実感を込めて語る。現在後藤さんは、今年の夏に開催される企画展「驚異の深海生物—新たなる深世界へ—」の準備の真っ最中。その成功に向けて内容の充実はもとより、広報活動にも尽力している。

後藤さんにとっての山形大学とは?

心のふるさと 後藤亮

山本さんにとっての山形大学とは?

近所の国際線ターミナル
山本憲作



片倉健智
かたくらけんち ●岩手県出身。2010年農学部生物環境学科卒業。東日本大震災直後に宮城県庁入庁。4月から数ヶ月間は避難所勤務も。現在、震災復興・企画部で被災地の復旧復興に尽力している。

東日本大震災から丸5年、復旧復興に向けてがんばる被災地にも卒業生の姿があった。農学部生物環境学科(当時)で河川環境学を専攻していた片倉健智さんは、震災直後に入庁した宮城県職員。現在は、人事交流で本来の配属先を離れて、震災復興・企画部地域復興支援課土地対策班の技師として、市町村が行う土地境界の確認調査及び測量成果の検査・認証業務等を担当している。河川の生態系への興味から農学部に進学した片倉さんが県庁職員を目指すきっかけに

4年間で得た専門知識や気力、体力、仲間は宝、それらを糧に地域の復興業務に全力で取り組む。

片倉健智 宮城県震災復興・企画部地域復興支援課土地対策班 技師

なったのは、県庁職員になった先輩の「特定の仕事だけでなく、専門分野に関係するさまざまな仕事で地域に貢献できる」という話に魅力を感じたこと、地域の子どもの対象として水田の多面的機能や生き物の紹介をするイベント「田んぼの学校」に携わりたいとの思いからだ。本来の職場である農林水産部では、実際に「田んぼの学校」の講師を務めるなど、大学で学んだ専門知識がそのまま生かされたことに加え、測量に関する知識等は現在の職場でも基礎として役立っているという。大学時代には、卒論の調査のために原付と



田んぼの生態学的役割の話も交えながら、捕獲した生き物の解説をする片倉さん。大学で学んだ専門分野を仕事に生かしている。

自転車で演習林に毎日通い続けた約2か月間や、環境保全サポーターとして参加した地域の活動、おいしい賤い料理と接客体験が魅力だったアルバイトなど、たくさんのいい出会いに恵まれた。特に卒論研究でも、自主性を尊重しつつも要所で熱心に指導して下さった担当教授には今でも深く感謝している。「楽しい思い出や悩み苦労した経験すべてが社会に出てからの活力になっている。大学の4年間は間違いなく人生の宝となるので、仲間と共にたくさん悩み、興味のあることには一生懸命挑戦してほしい」と実感を入れてエールを送ってくれた。

自分の可能性を
広げる場
片倉健智

片倉さんにとっての山形大学とは？



現在の仕事はデスクワーク中心だが、検査の際には測量の現地確認等も行う。現地で市役所職員から説明を受ける片倉さん。

集中の成果

好奇心の成果

土壤微生物に魅せられて高校2年で進路を決意。大好きな研究だから、卒論も就活もがんばれる。

菊地貴衣 農学部食料生命環境学科植物機能開発学コース3年



所属する俵谷研究室で研究に励む菊地貴衣さん。卒論のテーマも決まり、今後は研究漬けの日々になりそうだ。

「目に見えない土壤微生物がニュージーランドで53億円もの経済効果をもたらした」そんな話題をテレビ番組で知ったのは菊地貴衣さんが高校生の時。子どもの頃から土や虫などの生き物に興味があった菊地さんは、その後、高校生向けに本学農学部が開催している公開講座「ひらめき☆ときめきサイエンス」に参加し、そこで「山形大学の農学部で土壤微生物の研究がしたい!」と高校2年生にして志望大

学を山形大学に決めた。無事に入学を果たし、公開講座で指導を受けた俵谷圭太郎教授の研究室に所属することもできた。さまざまな場所から土壤微生物を採取し、顕微鏡で観察・分析するなど研究過程は地味だが、鶴岡市という自然豊かな研究試料にも恵まれた場所で勉強ができてとても満足しているという。

そんな菊地さんには「今いる場所で、今しか



菊地貴衣
きくちたかえ ●宮城県出身。農学部食料生命環境学科植物機能開発学コース3年。高校生向けの公開講座「ひらめき☆ときめきサイエンス」を受講し、土壤微生物への興味が高まり、農学部に入学。平成27年度のミス花笠としても活躍中。

予防医学への関心が高まり、公衆衛生分野へ。指導でも診療でもフェイス toフェイスを重視。

平山敦士 山形大学 助教(大学院医学系研究科公衆衛生学担当)

東京都出身の平山敦士さんが初めて山形を訪れたのは受験の時。厳しい冬景色に不安を覚えたものの、気がつけば卒業後もずっと大学病院に残り、専門分野の研究や医学生への指導、県内医療機関での診療等に取り組んでいる。子どもの頃から憧れ、尊敬していた医師になるべく医学部を目指すことにした平山さんは、国家試験の合格率の伸びなどに注目し、山形大学を志願した。その決断が、後のさまざまな出会いや経験につながり、平山さんを山形に留まらせている。

大学時代の平山さんは、医学生としてのハードな勉強だけでなく、学内外で多彩な経験を積み、視野を広げることを心掛けた。友人とハンドボール部を創設したり、新聞部で医学部医学科同窓会新聞『蔵王』の編集全般を取り仕切ったり、米国内科学会日本支部のスチューデントメンバーとして英語での症例検討会に参加したりと、敢えて自分に負荷



社会医学・医療学(公衆衛生)の担当教員として講義を行う平山先生。学生たちの興味を喚起しつつポイントを熱弁中。



「これまでの知見を応用して人の役に立つ医療・研究を行い、山形で学び育ててもらったことへの恩返しをしたいです」と語る平山さん。

をかけて、やらざるを得ない状況をつくってきた。ハンドボール部顧問であり、第一内科教授の久保田功先生は、学業面での恩師でもあり、平山さんの専門を決定づけた先生でもある。また、全国に先駆けて導入されたスチューデントドクター制度の第1期生でもある平山さんは、ずっと医師と患者間の信頼関係について関心が高かったこともあり、充実した臨床実習は非常に有意義だったと振り返る。昨年には、以前から興味があった予防医療の研究に本格的に取り組むために公衆衛生学講座の助教に就任。「大学のカリキュ



平山敦士
ひらやまあつし ●東京都出身。卒業後、臨床医として循環器内科学、救急医学を専攻。2014年救急医学講座助教、翌年より公衆衛生学講座助教。大学院医学系研究科公衆衛生学講座の当直業務のほか、山形県内の医療機関で診療を担当。

ラムに満足してしまわず、自分でアンテナを広げて学内外のさまざまなチャンスをキャッチし、挑戦して人間性を豊かにしていってほしい」と語る平山さんの次なる目標は、アメリカへの海外留学だ。活躍の場を広げる先輩から今後も目が離せない。



昨年9月に東京ビッグサイトで開催された「ツーリズムEXPOジャパン」に参加。山形県の観光PRに努めた。

できないことをする」という行動のポリシーがある。せっかく山形で暮らすので、山形ならではのことに取り組もうと、花笠サークル「四面楚歌」

に入り、さらに新しいことに挑戦する気持ちで応募してみたミス花笠にまでなることができた。研究が忙しいからといってそれだけに終始することなく、常に視野や世界を広げたいと考えているが、ミス花笠として東京、名古屋、宮城で山形県の観光PRを行うなど、行動半径や視野を広げる貴重な機会にも恵まれている。

4月からは4年生となるが、卒論のテーマも決まり、これから広島大学や国際農林水産業研究センターの先生方との共同研究や、理化学研究所環境資源科学研究センターの装置を使っの研究など、よりハードな研究生生活が待っている。さらに、就職活動も本格化するのが、「毎日地道にコツコツ研究に取り組むこと

を習慣化できたので、忍耐力はかなり鍛えられたと思います」とポジティブに試練を受け止めている。これらすべてが、大学生の今、ここ山形大学でしかできない経験だと捉えれば、誰だってきっとがんばれる。そんな姿を示してくれるかのようだ。

将来の礎と
なった場所
菊地貴衣

菊地さんにとっての山形大学とは？

YAMADAI TOPICS

人文学部

Faculty of Literature and Social Sciences

山形の写真文化を再検証 「菊池新学シンポジウム」 開催



12月20日(日)、人文学部附属映像文化研究所の主催により、「没後100年記念 菊池新学シンポジウム—東北初の写真家、菊池新学と山形の写真文化」を開催しました。本シンポジウムは、山形市内に東北初の写真館を開業したことで知られる菊池新学の没後100年を記念し、その業績を広い視野から再検証することを目的とした企画であり、当日は、県内から参集した研究者によるパネル発表とディスカッションがおこなわれました。

パネル発表では、野口一雄氏(山形県立博物館専門嘱託)と平井鉄寛氏(鶴岡アートフォーラム副館長)が、菊池新学の活動とその弟子筋による写真文化の普及について、詳細なデータにもとづく調査結果を報告されました。また、コメンテーターの岡部信幸氏(山形美術館副館長)からは、明治初期の写真と絵画の関係について、多くの興味深い事例の紹介がありました。

続くディスカッションでは、新学の活動の多様性や、地方写真史研究の意義などについて、活発な議論が交わされ、会場からも熱心な質問と意見が寄せられました。

地域教育文化学部

Faculty of Education, Art and Science

造形芸術コース 卒業制作展2016を開催

2月3日(水)から7日(日)までの5日間、山形美術館において造形芸術コース4年生による卒業制作展を開催しました。

今年度は「どの分野においても、作品は全て人の手から生み出される。一人ひとり学生生活の中で培ってきた知識や技術、経験や考え方は異なり、それが個性となり作品が自分自身の集大成となって表現される」をテーマに、4年生20名の作品を展示しました。

「絵画」、「彫刻」、「工芸」、「構成・デザイン」、「美術理論・美術史」の5つの研究室にそれぞれ所属した学生たちが作り上げた作品は、油彩・テンペラといった絵画作品やテラコッタ、石膏、木彫の彫刻作品だけでなく、ストップモーションによるアニメーション動画、移動式住居の建築模型、卵殻を用いた波消ブロック型の立体造形、舞台装置など多彩なジャンルにわたるものとなりました。開催期間中には約420名の来場者の皆さんに、それぞれの手から生み出された作品たちを鑑賞していただきました。



理学部

Faculty of Science

「新元素113番」 理学部研究者等が 合成実験に参加しました



12月31日(日本時間)に、国際機関が「新元素113番」を理化学研究所仁科加速器研究センターの研究グループが発見したと認定しました。この113番元素の合成実験に理学部から門叶冬樹教授、高感度加速器質量分析センター武山美麗技術員、理工学研究科博士前期課程1年石沢倫さんが参加しています。理研仁科加速器研究センターの森田浩介グループディレクター(九州大学教授)率いる研究グループの一員として、門叶教授らの研究グループが2000年から合成実験に参加し、観測、データ解析、合成実験のモニター開発、検出器開発等を行い、この度の合成成功に貢献しました。

「113番元素」は、10年近い年月をかけ発見されたもので、亜鉛(Zn原子番号30、陽子数30個)の原子核とビスマス(Bi原子番号83、陽子数83個)の原子核を衝突させ、融合させることによって $30+83=113$ 番元素となります。東北の大学法人では本学のみが所有する高感度加速器質量分析装置(AMS)にも「分析装置の原理」が組み込まれており、今後、幅広い研究分野での貢献がますます期待されます。

各学部からさまざまな話題や近況が届きました。
山形大学の多方面での活動、活躍にご注目ください。

医学部

Faculty of Medicine

山形県コホート研究 (Yamagata Study) ベースライン調査2万人超 達成・感謝状贈呈式を挙

医学部は12月8日(火)、同学部が推進している山形県コホート研究(Yamagata Study)のベースライン調査が、目標としていた2万人を超えたことから、これまで本研究に対して多大なるご尽力をいただいた関係自治体、医師会及び検診センター等への感謝の意を表すため、270名を超える出席者のもと感謝状贈呈式を山形市内のホテルで開催しました。

式では山形県コホート研究・研究代表者の嘉山孝正医学部参与が、これまでの支援に対し御礼のあいさつを述べた後、関係自治体、医師会、関連団体に対して感謝状を贈呈しました。次いで、国立がん研究センターの津金昌一郎がん予防・検診研究センター長による講演、記念祝賀会が開催され、盛会のうちに終了しました。

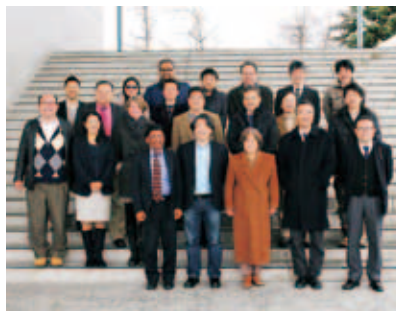
今後、本研究では追跡調査や2次調査等を行う予定であり、本データを基に、山形県全県レベルでのがん・循環器疾患登録事業を行うとともに、保険診療情報、行政情報とのデータの照合を進め、疾患発症との関連を明らかにすることを計画しています。



工学部

Faculty of Engineering

第5回 GMAP/NGAP/LPIC合同 国際シンポジウムを開催



山形大学グリーンマテリアル成形加工研究センター(GMAP／代表:伊藤浩志教授)は、ライフ3Dプリンタ創成センター(LPIC／代表:古川英光教授)と次世代自動車用プラスチック素材加工研究センター(NGAP／代表:伊藤浩志教授)との共催で、1月22日(金)・23日(土)に工学部(米沢キャンパス)百周年記念館にて若手主体の国際シンポジウムを開催しました。

GMAPセンターは、これまで、センターのアクティビティを示すとともに、欧米諸国、アジア諸国との若手研究者とのより強固な連帯を目的に、毎年1月下旬に国際シンポジウムを開催しています。2010年から開催しており、本年は5回目となります。今回は、特にLPICとNGAPも共催に加わり、ポリマーや金属、デバイス、センサー等より広い分野からの研究者を14名招待し、山形大学側メンバーも32名参加し、のべ46名の研究者によって2日間活発な研究討論が行われました。参加者からは「様々な分野の先生方の大変面白い講演を聞いて勉強になりました」とのうれしいお言葉も頂き、大変好評のうちに終了しました。

農学部

Faculty of Agriculture

農学部オリジナル純米 大吟醸酒「^{きらめき}燦樹2016」が 完成

今年もオリジナル純米大吟醸酒「^{きらめき}燦樹2016」が完成し、2月1日(月)より本学の各キャンパスにある山形大学生協店舗にて販売が開始されました。

「燦樹2016」は、本学部附属やまがたフィールド科学センター高坂農場で栽培された酒米「出羽燦々」を100%使用しており、庄内町の鯉川酒造が醸造を担当しました。醸造本数は720ml瓶で生酒900本、火入酒1,050本の合計1,950本。価格はどちらも1本1,750円で、売上の一部は学生への支援として活用されます。

発売に先立ち、1月28日(木)に本学部生協食堂で新酒試飲会が行われ、教職員および生協関係者約30名が新酒の出来栄を楽しみました。また、2月2日(火)に行われた学長定例記者会見で、鯉川酒造株式会社の佐藤一良社長、本学部フィールド科学センターの佐久間拓也技術専門職員、山形大学生協の阿部芳晴専務理事が新酒の完成および発売について発表を行いました。この「燦樹」は、本学生協店舗のほか、同組合ホームページからのご購入も可能です。この機会にぜひご賞味ください。



「食べる、食べられる」関係にある 植物と昆虫の防御機構に着目し、 新しい化学物質の発見・応用を目指す。

網干貴子 助教(生物有機化学)

植物と昆虫は、「食べる、食べられる」関係にあり、お互いにさまざまな方法で身を守っている。特に、自分で動くことのできない植物は、トゲや硬い葉で防御するものもあれば、相手にダメージを与えるような化学物質を持っているものもある。生物有機化学を専門とする網干貴子先生は、植物が持つ化学物質の分析を重ね、新規化合物を発見することで新しい農薬の開発などに利用し、植物保護や害虫管理に役立てることを目指している。



LC-MS
(液体クロマトグラフ質量分析計)

化合物を液体クロマトグラフで分離し、分離された物質を質量分析計 (MS) で分析する装置。成分分離と精密質量計測が同時にできるという点で画期的で実験・研究を加速させている。

植物が持つ化学物質を生かし生態系を崩さず、害虫管理

生物は生き残りをかけて絶えず進化し続けている。それは、植物や昆虫も例外ではなく、植物は昆虫に食べられないようにするために毒成分を作り出したり、昆虫はその毒を無毒化する酵素を作り出したりという共進化を繰り返している。たとえば、植物の防御物質であるタンニンが、イモムシの消化酵素を変性させて成長を抑制するが、ある種のイモムシはリゾリン脂質を腸内に分泌することで、消化酵素変性を防ぐことを解明した網干貴子先生の研究成果は、まさに共進化の一コマだ。このように網干先生は、植物や昆虫が身を守るためにどんな化学物質をどのように使い、また、それがどうやって克服されているのかに着目した研究を行っている。特に、自ら動けず、逃げることのできない植物はさまざまな化学物質を持っているため、網干先生はイネをはじめとする植物が持っている生理活性物質を探している。イネなどの普通の植物でも微弱ながら昆虫に対する毒性物質を持っており、それらをいろいろ組み合わせることで、抵抗性を出にくい植物保護の方法を探し出そうとしている。毒性の強い生理活性物質は抵抗性が出やすいからだ。これを新しい農薬の開発に応用すると、農薬がついたイネを食べた昆虫に、それ以上は食べなくなる程のダメージを与える効果を継続させられることになる。

具体的な研究手法としては、イネの苗に植物ホルモンや虫による食害などのストレスを与え、新しくできた化合物を見つけて構造を分析し、新規の化合物かどうかを特定する。近年は、珍しい植物を対象とする研究が主流だが、イネという研究し尽くされた対象物であっても、分析機器の発達により今までは発見に至らなかった新しい化合物が見つかる可能性が残されている。

きっかけはフェロモン 行動を変える化学物質に興味

京都大学出身の網干先生は、フェロモン研究が専門の研究室に学び、ダニなどの昆



網干貴子

あぼしたかこ ●助教／専門は生物有機化学。新潟県出身。京都大学にて学位取得、博士(農学)。2014年9月着任。昨年4月から半年間YU海外研究グローイングアッププログラムによりアメリカのコーネル大学に留学。

虫が仲間に危険を知らせる警報フェロモンや、カメムシなど集団生活をする虫に見られる集合フェロモンなどへの興味から現在の研究に至っている。フェロモンによって一斉に逃げたり、集まったりと、「相手の行動を変えさせる化学物質を自分で特定できたらどんなにおもしろいだろう」と思ったのがきっかけだ。

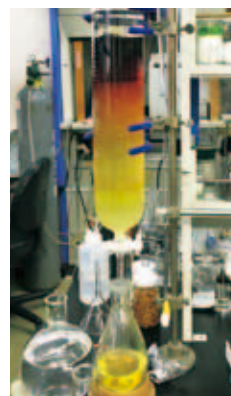
本学への着任は平成26年9月。その翌年3月から9月まで、本学が若手教員等を対象に実施している海外の大学・研究機関に派遣する「YU海外研究グローイングアッププログラム」の採択を受けてアメリカコーネル大学ボイス・トンプソン研究所に留学。自身の研究をより深めると共に、マネージングに関しても学ぶことができた。また、研究所が多国籍の留学生を多く受け入れていたため、英語が得意ではない人とのコミュニケーション術の習得にもつながった。半年間という短い期間ではあったが、新たな人脈を築くことができたことは有意義で、今後の教育や研究に大いに活用できそうだ。着任後すぐに留学と、慌ただしかったため、現在網干先生の研究室に所属している学生は2名。平成28年度からは本格的に研究室の充実を図り、活動を活発化させていくことになりそうだ。

フィールドワークも交え 学生たちと研究対象の発掘も

網干先生はまだ鶴岡キャンパスでの春や夏を体験していないのだが、この春からは演習林などに出てフィールドワークにも取り組んでいきたいと意欲を見せている。自然豊かで四季のはっきりした鶴岡なら、網干先生の探求心を刺激する新たな研究対象物に出合える可能性が高い。今後、研究室活動を本格化させていくにあたっては、学生自身が希望する研究対象探しから一緒に始めたいと考えている。昆虫や化学に対する苦手意識や先入観を抱かずに、なんでも吸収しようという姿勢で研究に取り組める学生であれば、きっとこの研究のおもしろさや醍醐味に気づいてくれるに違いないと胸を張る。

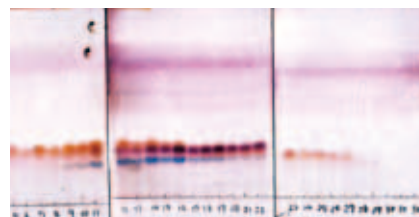
昔からある研究分野ながら、分析装置の発達などにより、地道に研究を続ければ新たな発見の余地はある。ようやく発見した化合物が新規性のものではなかったとしても、そこに今まで未知だった属性を特定できれば新たな発見と言える。研究者が新しい発見をする時、そこからまた新たにさまざまなナゾが生まれる。まるで化学物質と研究者の間にも共進化が存在しているかのようだ。

カラムクロマトグラフィー



さまざまな成分が混合している状態の植物成分から特定の物質だけを取り出すために、装置を使って単離精製している様子。樹脂を通して植物成分が分離され、装置内で層を成している。

TLC (薄層クロマトグラフィー)



カラムクロマトグラフィーで精製した植物成分がちゃんと分離できているかをチェックするためのシート。

イネの試料



イネを分離した試料を左ページの液体クロマトグラフ質量分析計で分析した結果をグラフ化したもの。

NMR装置



強い磁場の中に試料を置き、分子構造や物性の解析を行うことのできる装置。LC-MSとNMR、必要なデータに応じてそれぞれの装置の特性を考えて使い分けしている。

世界の大学から

山形を飛び出し、世界で見聞を広め日々研鑽を積む
留学中の学生の声を現地からお届けします。



インジェ
仁済大学校
【韓国】

地域教育文化学部地域教育文化学科
異文化交流コース4年 大久保智世



昨年9月から、韓国の仁済大学校に交換留学に来てからおよそ6か月が経ちました。初めて空港に到着した日がまるで昨日のように思えるほど、あっという間に6か月が過ぎ、毎日いろいろな出会いや経験をしながら充実した日々を送っています。初めのころは口から火が出るほど辛かった韓国料理にも慣れ、今では毎日辛い物を食べなければ気が済まなくなってしまうほどです。

日本と韓国は距離的に近いため時差もなく天候もほとんど似ているのですが、唯一違うところはやはり、韓国独特のにぎやかで慌ただしい雰囲気です。よく、韓国の国民性が「パリパリ文化」の一言で表されるほど、何をしてもとにかく早さを重要視します。特に、仁済大学校がある釜山地方はその国民性が最も強い地域だと言われており、路線バスはまるで遊園地のアトラクションのようなスピードで走るため、半年経った今でも毎回緊張しながら乗っています。さらに、せっかちな地域性は言葉にも表れていて、独特なイントネーションの「釜山弁」(日本の大阪弁のような方言)が使われているため、留学当初は言葉を聞き取るのにも大変苦労しました。

授業は主に、基礎韓国語「書く・読む・話す・聞く」の4つの授業と、韓国語能力試験対策の授業、留学生向けの体育の授業、合わせて6つを履修しました。どの授業の先生方も優しく丁寧に、私たち留学生のペースに合わせて教えて

くださいます。ほとんどの先生が日本語を話せるため、分かりにくいところがあると日本語で説明してくれます。そのため、あまり理解に苦労することなく確実に韓国語を覚えることができました。

また、仁済大学校には日語日文学科があるため、日本語や日本の文化に興味を持っている学生がたくさんいます。学生たちは日々熱心に日本語を勉強しており、日本語での演劇を披露したり、韓国のおいしい食べ物や有名な場所を教えてくださいと、互いに国境を超えた日韓交流を楽しんでいます。ちなみに韓国では、ほとんどの高校で第二外国語としての英語はもちろんのこと、第三外国語として日本語を選択できるため、日語日文学科以外の学部でも簡単な日本語を話せる学生がたくさんいます。日本に興味のある経済学部や看護学科の学生たちとの交流が開かれたり、日本に留学経験のある体育学科の先生のお宅に招待していただいたり、街を歩いていると「日本人かい？昔はよく日本に行ったよ。日本は素晴らしい、日本が大好きだよ」と話しかけてくれたおじいさんに会ったりと、日本に好意的な韓国人がたくさんいることに日々驚きと嬉しさを感じています。

早いことに残り4か月の留学生活となりましたが、今しか経験できない貴重な時間を大切にさらに充実した留学生活を送っていききたいと思っています。



日本語の授業風景



学食にて留学生の友人たちと



大学内にある学生寮

仁済大学校ってどんな大学？



仁済大学校外観

仁済大学校は、1979年に仁済医科大学として設立され、1988年に総合大学として認められた私立大学です。韓国全土に3つのキャンパスと5つの病院を持ち、また、世界13か国88カ所の大学機関と協定を結んでおり、本学とは2006年に大学間交流協定を締結しました。キャンパスには様々な国の留学生がたくさんいるため、アジア圏だけでなくオランダやイスラエル、スウェーデンの留学生との交流も楽しんでいます。

広い大学構内には8つの学部棟以外に付属幼稚園、運動場、学生食堂のほか、図書館(24時間年中無休)、銀行、郵便局、クリーニング店、ベーカリーショップ、文具店、書店、写真館、カフェ、トレーニングジム、コンビニ等の施設が充実しています。また、在籍するおよそ11,000名の学生のうち、2,400名が大学内の4つの寮で生活しており、寮生専用の広々とした食堂では、友人と共に食事をとるほか、1日の出来事や他愛もない話などをして寮生活を楽しんでいます。そのためか、仁済の学生は日本の学生と比べて、学生同士の絆が深く集団生活に対する適応力が高いように感じます。

留学生が日本語スピーチコンテストに参加しました。



連合大学院1年ムエンシトアンさん

2015年11月29日(日)に、三川町の会場で「第5回日本語スピーチコンテストin庄内」が開催され、本学部から2名の留学生が参加しました。このコンテストは、庄内一円の国際交流機関や日本語教室などの実行委員会により平成23年度より実施され、鶴岡市、庄内町、酒田市、遊佐町と会場を回り今年5回目の開催となります。

今回のコンテストには5ヶ国6名が参加し、本学からも岩手大学連合農学研究科のムエンシトアンさん(ベトナム出身)と湯水栄さん(中国出身)が出場しました。



連合大学院2年湯水栄さん

ムエンシトアンさんは「日本、私の不思議な国」と題して食事や生活の文化的の違いについて感じたことを、湯水栄さんは「日本に対

する印象」と題し、日本の自然・文化・社会環境の美しさに感動したことや日本人のマナーの良さなど留学生生活を通じて感じたことなどを発表し、日頃の日本語学習の成果を披露しました。惜しくも受賞はなりませんでしたが、2名とも素晴らしい発表でした。今後につながる大変良い経験になったことと思います。



出場者のみなさん

YAMADAI NEWS

「山形大学マガジン」でおなじみの学生広報部YUM!(ヤム)が、学生目線で山形大学を紹介します。

キャンパス取材班が行く～ビジネスへの挑戦(米沢キャンパス編)～

YUM! 米沢代表
小原永義

2015年12月、自ら生み出したビジネスプランを手に、選ばれし大学生が東京に集結しました。学生や大学教員の起業家教育推進を目的に行われているビジネスプランコンテストのUVGP (University Ventuer Grand Prix)。山形大学からは工学部生8名2チームが決勝戦へ臨みました。

UVGP 挑戦のきっかけは、工学部の志村教授の誘いでした。誘いを受けた中川一貫さん、丸山寛花さんは仲間を集め、各チーム、プランを練り上げたそうです。中川さんらの「3Dsquirrel」は話題の3Dプリンターを一般の人でも簡単に使える設計ソフトとサー



プレゼンテーションの様子

ビスの提供、丸山さんらの「ELDK」は有機ELディスプレイを既存の窓に貼り付け、窓からの景色を世界各地の絶景に変える、というプラン。決勝では惜しくも受賞を逃してしまいましたが、3Dsquirrelは別大会への参加、ELDKは大学や企業との連携で実現に向けて動いているようです。

「純粋な興味からだった」と中川さんらはUVGP参加の決め手を語ります。渡辺さんと宮澤さんも「興味に素直に挑戦することで、大学4年間を楽しく過ごしてきた」と思いを同じくしていました。「大学での研究や勉強

だけが大学生じゃない」「自分の『やってみよう』をすぐに実践できるのは今だけ」と丸山さんと及川さんも新しいことへの挑戦に意欲を燃やしてきたそうです。「好きが高じて本業になる」というように、興味を突き詰めれば素晴らしいビジネスに繋がることを皆さん体現していました。

「大学生は人生の夏休み」という人もいます。流されるまま過ごしては、無駄に長い休みになってしまいます。生涯で一番自由な4年間を人生の大きな転換点と心がけ、新一年生の皆さんが大学を楽しんでくれることを期待しています。



「ELDK」チーム、左:丸山寛花さん、右:及川裕香さん



「3Dsquirrel」チーム
左:宮澤拓真さん、中:渡辺健一郎さん、右:中川一貫さん

*「山形大学マガジンYUM!」はホームページ <http://www.yamagata-university.jp/> をご覧ください。

小白川キャンパス トワイライト開放講座

小白川キャンパスにある人文学部、地域教育文化学部及び理学部が開講している授業科目を高校生の皆さんにも「トワイライト開放講座」として広く開放いたします。この機会に、山形大学キャンパスで大学生と一緒に様々な講義を体験してみましょう!

	人文学部	地域教育文化学部	理学部
日時 (毎週)	4月～7月 火・木曜日	10月～2月 水・木曜日	4月～7月 金曜日
場所	16:30～18:00 小白川キャンパス内講義室		

▶ 講義内容

- 【人文学部】「人間文化入門総合講義」
「総合講座Ⅱ(法律)」
- 【地域教育文化学部】「代数学A」
「アジアの自然と社会」
- 【理学部】「サイエンスセミナー」

対象/高校生(理学部の授業科目は一般の方にも開放します。)

受講料/無料

その他/詳しい内容は、開講学部のホームページに掲載します。授業の開始日や休講日等にご注意ください。後期開講分は、開講日時が近くなりましたら改めてお知らせします。

問い合わせ/小白川キャンパス事務部
人文学部事務室(学務担当)
TEL 023-628-4709

式典行事

平成28年度 入学式

日時/4月5日(火) 10:30～
場所/山形県体育館(山形市)



農学部

上名川演習林入山式

日時/5月6日(金) 11:00～
場所/農学部附属やまがたフィールド科学

センター上名川演習林(鶴岡市)
問い合わせ/農学部事務室(附属施設担当)
TEL 0235-24-2278

公開講座等

人文学部

公開講座

「映画・写真・絵画・文学における
ドキュメンタリーとフィクション」

日時/6月2日(木)・6日(月)・13日(月)
20日(月)・23日(木) 18:30～20:10
場所/人文学部1号館
参加費/一般2,000円、大学生・高校生無料
問い合わせ/人文学部事務室
TEL 023-628-4203

理学部

小さな科学者・体験学習会 わくわく化学実験ランド

日時/4月24日(日) 10:00～12:00
場所/山形大学SCITAセンター
対象・人数/小学4～6年生の児童とその保護者 12組
参加費/無料
問い合わせ/理学部事務室(総務担当)
TEL 023-628-4505

工学部

公開講座・学園都市推進協議会
市民カレッジ～山大編～
「山形ゆかりの人びと幕末・近代編」
工学部フレックスコースシステム創成工科学
1年生の講義を一般の方々にも開放します。

見つめて!感じて!
サイエンスマジック!

Be☆5時

山大サイエンスカー



FRI (第1週)
21:00 - 21:30

月
日
()
日直
スリ
デー
シ
ム
シ
ョ
ン

番組ブログ更新中!
山形大学のホームページで
過去の放送を
聴くことができます♪



県内の中学生に、最新の科学をわかりやすい実験を通じてご紹介!
生徒達に流行していること、学校の取り組みもインタビューします!

〈出演〉栗山恭直(山形大学理学部教授)、大屋香里(エフエム山形アナウンサー)
〈周波数〉山形 80.4MHz 鶴岡 76.9MHz 新庄 78.2MHz 米沢 77.3MHz

山形大学の行事・催事のご案内です。
地域に根ざした大学としてみなさんのご参加をお待ちしています。

日時／5月10日(火)～7月12日(火)

14:25～15:55

(毎週火曜日)計10回

場所／工学部4号館中示範A教室

対象・人数／一般の方 50名

参加費／無料

問い合わせ／米沢市役所総合政策課

学園都市推進室

TEL 0238-22-5111

(内線2803)

モバイルキッズ・ケミラボ2016

大学院理工学研究科(バイオ化学工学分野)の教員と米沢市教育委員会から構成される団体(モバイルキッズ・ケミラボ、代表:木島龍朗)が実験指導を行います。

日時／5月～12月の土曜日 9:30～12:00

全10テーマ(2テーマを5回)

同じテーマを月に3回開催するので、好きな日を選択できます。

場所／米沢市理科研修センター

(置賜総合文化センター4階)

対象／主として米沢市内小学4年生以上の

児童とその保護者

参加費／無料

問い合わせ／米沢市理科研修センター

TEL 0238-22-5111

(内線6407:遠藤まで)

農学部

わんぱく農業クラブ

日時／5月～11月(毎月1回・土曜日)

計7回

場所／農学部附属やまがたフィールド科学

センター高坂農場(鶴岡市)

対象・人数／鶴岡市内小学3～6年生の児童

とその保護者 30組(先着順)

参加費／無料

問い合わせ／農学部事務室(附属施設担当)

TEL 0235-24-2278

※詳しい内容は確定次第農学部HPに掲載

公開講座

「庄内を潤す水^{みどり}土里の恵み」

日時／6月4日(土)・11日(土)・18日(土)・

25日(土) 13:00～16:10

(毎週土曜日)全4回

場所／農学部キャンパス(鶴岡市)

参加費／無料

問い合わせ／農学部企画広報室

TEL 0235-28-2911

※詳しくは後日農学部HPに掲載

農場市

日時／6月中旬～12月中旬 12:00頃～

(毎週1回・木曜日)

場所／農学部キャンパス(鶴岡市)

問い合わせ／農学部事務室(附属施設担当)

TEL 0235-24-2278

※詳しい内容は確定次第農学部HPに掲載

附属幼稚園

「お友達、こんにちは」

～子育てを楽しもう～

日時／6月28日(火) 14:30～15:45

場所／附属幼稚園

対象・人数／2～3歳児 親子50組

参加費／200円(材料・保険代)

問い合わせ／附属幼稚園

TEL 023-641-4446

その他

平成28年度 新入生保護者の皆様と山形大学の交流会

日時／6月25日(土)

キャンパスツアー(希望者)11:30～

講演会ほか 13:30～16:10

懇談会 16:30～18:00

場所／小白川キャンパス(山形市)

問い合わせ／エンロールメント・

マネジメント部

TEL 023-628-4063

(ご注意)

・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。

・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付きATMでもご利用いただけます。

・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証を必ずお受け取りください。

・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおとこころ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。

・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

収入印紙

課税相当額以上

貼付

印

この場所には、何も記載しないでください。

「山形大学 未来基金」 ご協力をお願い

山形大学未来基金は、山形大学の基本理念である「学生教育を中心とする大学創り」のもと、学生が存分に勉学に励み、充実した学生生活を送るための学生支援基金として、平成20年3月に創設されました。以来この8年間で、延べ2,000名以上の皆様から、心温かいご支援と多くのご寄附を賜ってまいりました。

現在、皆様から頂戴いたしました貴重なご寄附は、「山形大学 YU Do Best 奨学金」として、山形大学で学ぶ約1万人の学生の中から、毎年度、成績及び人物ともに優秀な学部3年生(医学部は5年

生)10名程度を選考して、2年間月額3万円の返還不要の奨学金として支給させていただいております。

つきましては、この奨学金を安定的に運用していくため、山形大学未来基金の趣旨をご理解いただき、甚だ恐縮ですが、このページの下部に添付いたしました振込用紙にて、何卒ご支援を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

平成28年3月

山形大学長 小山清人

(本件についてのお問い合わせ先)

山形大学総務部総務課 / 〒990-8560 山形県山形市小白川町一丁目4-12

電話 023-628-4006 FAX 023-628-4013 E-mail somsomu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

編集後記 Editor's Note

本号の特集では、多彩な活躍をされている卒業生の方が紹介されています。もしかすると、将来に思い悩む在学生や新入生の皆さんには、自分には手の届かない人生のように見えるかもしれません。しかし、どんな進路であっても、目標に向かうための一歩を自分の意志で踏み出すところから始まるはず。目指した場所に辿り着けるかどうかは人それぞれでしょうが、どんな場所に辿り着いたとしても、(小さくても)何かに挑戦し続けることで世界が広がり、人生のクオリティを上げることに繋がるのではないのでしょうか。私は、山形大学に赴任して間もなく編集委員を務めましたが、今号で任期を終えることとなります。2年間で大学内が以前より少し見えるようになった気がしますし、大学が広報を含むさまざまな方々の仕事に支えられていることを改めて実感しています。どうも有難うございました。
(みどり樹編集委員会委員 富松裕)

今号の表紙 自然豊かな山形県の四季は、時にやさしく時に厳しく、いつも美しい。その四季に抱かれ学業やサークルに勤しむ学生たち。今も昔も変わらない光景。このキャンパスには、各界で活躍する先輩たちの足跡もしっかりと刻まれている。

●この「みどり樹」は山形大学ホームページでもご覧いただけます。

山形大学 みどり樹 検索

●「みどり樹」は、3月、6月、9月、12月に発行する予定です。

●みどり樹WEBアンケートを実施中です。ご意見やご感想をお寄せください。



山形大学ホームページ <http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>

払込取扱票

02	仙台	通常払込料金 加入者負担	
口座記号番号		金額	千 百 十 万 千 百 十 円
0 2 2 6 0 7		9 2 4 7 8	
加入者名 国立大学法人山形大学		料金	備考
「山形大学未来基金」申込書 ※1口 1,000円、1口以上でお願いいたします。 ※この払込用紙は、1人(または団体)1枚をご使用ください。 ※個人情報の利用について 提出していただいた書類の個人情報は、本事業に関する手続きのみに使用し、第三者に開示・提供・預託することはありません。ただし、ご承諾いただける場合は、寄附者の方々のご芳名を本学広報誌みどり樹及びホームページに掲載し、永く本学の歴史に刻ませていただきます。 ご芳名の掲載について、 <input type="checkbox"/> 承諾する <input type="checkbox"/> 承諾しない(※いずれかをチェック願います。) ※領収証明書の発送に必要ですので、おとこ、おなまえのご記入をお願いいたします。			
おとこ (郵便番号)		日 附 印	様
※ おなまえ (電話番号 - -)			
裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行) (承認番号仙第 8982 号)			
これより下部には何も記入しないでください。			

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号	0 2 2 6 0 7	通常払込 料金加入 者負担
	9 2 4 7 8	
加入者名	国立大学法人山形大学	
金額	※	
ご依頼人	おなまえ	
料 金	日 附 印	
備 考		

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。
切り取らないで出してください。

この受領証は、大切に保管してください。

各票の※印欄はご依頼人において記載してください。